

ドキュメンタリー映画


世界中に届けたい青春が

ここにある……

うたごころ

photo by SHIGGY

「うたごころ2011」上映会&監督講演会

 とよなか国際交流協会&センター
20周年(ハタチ)記念特別企画

日時: 2014年3月2日(日) 14:00~15:50 開場受付 13:30

会場: とよなか男女共同参画推進センター「すてっぷ」ホール 豊中市玉井町1-1-501

アクセス: 阪急宝塚線豊中駅より徒歩2分(阪急豊中駅前「エトレとよなか」5階)

プログラム: 映画本編 60分・監督講演 45分

定員: 150人

入場料: 一般(当日1200円・前売1000円) / 学生(当日800円・前売700円)

※20周年記念企画により特別割引料金となっています。

※就学前のお子様の入場はご遠慮いただいております。保育あり(0歳~要予約)

主催: とよなか国際交流センター

前売申込み・問合せ: 公益財団法人とよなか国際交流協会(指定管理者) 豊中市玉井町1-1-1-601 エトレ豊中6階

連絡先: TEL / 06-6843-4343 FAX / 06-6843-4375 E-Mail / atoms@a.zaq.jp

後援: 豊中市教育委員会、(社)豊中市社会福祉協議会、(一財)とよなか男女共同参画推進財団、(特活)とよなか市民環境会議アジェンダ21、(特活)とよなか市民活動ネットワーク、(公財)豊中市スポーツ振興事業団、豊中市民公益活動協議体らっぷ [(特活)ユニバーサルデザイン推進協会、(特活)ラブとよネット、プラットフォームとよなか]



Story

宮城県三陸地方にある太平洋に面した小さな町。一帯が津波に流された町で、未曾有の苦難

に屈せず、ひたむきに生きる女子高校生がいた。彼女は、親類 5 人と自宅を失った。残ったのは、両親の結婚写真だけ。日本の片隅で、ささやかな幸せを願って、正直に生きてきた家族だった。

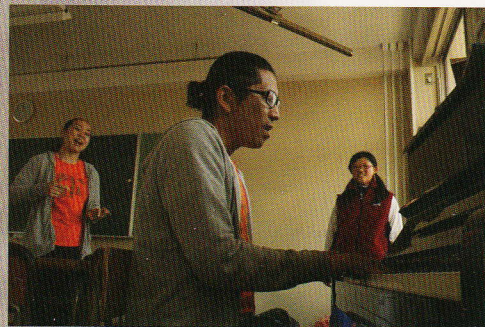
「次、もし何かあったら、
自分の命を投げ打ってでも、
父ちゃん、母ちゃんを助ける…」

そんな少女が大切にしていたのが「合唱」。
「歌は、みんなをつなげてくれる、素晴らしいものだから…」

大阪からボランティアに来た合唱グループとの友情。“あの日”の話を聞くうちに次第に明らかになる、少女の生い立ち。パズルのような家族関係が、震災という苦難を経て、強い絆で結ばれていく。

3ヶ月後、少女の所属する気仙沼高校合唱部は、3年生の引退が迫っていた。目指していたコンクールが中止になり、慣れない野外の会場で、女子高校生たちが祈りを込めて歌う、最後の合唱。

人間の強さと弱さ。それでも生きる希望を忘れない少女たち。その澄んだ歌声に託した“願い”は人々の“心”に届くのか…。



出演 宮城県気仙沼高等学校合唱部の皆さん
寺尾 仁志 (human note 代表)
human note の皆さん ほか

スタッフ

監督・撮影：榛葉 健
編集・MA：坂本 勉 (カムコンフィデント)
アシスタント：小沢 一代 (カムコンフィデント)
映像協力：小岩 隆男 (岩手県一関市・オヤマ電器)
写真協力：佐藤 信一 (宮城県南三陸町・佐良スタジオ)
音楽協力：早川 幹雄 (宮城県合唱連盟)
ピアノ演奏：藤溪 優子
題 字：六車 明峰
ポスター撮影：シギー 吉田

Director



榛葉 健 1963年東京都生まれ

ドキュメンタリー映画監督、テレビプロデューサー

1987年、在阪民放局入社。社会派、歴史、自然、スポーツなど、幅広くドキュメンタリーを制作し、日本テレビ技術協会賞、関西写真記者協会賞、坂田記念ジャーナリズム賞など多数受賞。世界最高峰チョモランマの取材では、登山家たちが放置する大量のゴミを世界のテレビで初めて告発。2年間かけて撮影した「幻想チョモランマ」は、海外でも放送された。

1995年以降、阪神・淡路大震災のドキュメンタリー 15本を制作。

その一作「with…若き女性美術作家の生涯」は、日本賞・ユニセフ賞、アジアテレビ賞、ニューヨーク祭優秀賞など受賞。世界的な反響を受け、2001年に映画化。

東日本大震災では、個人の立場で被災地に通い続け、自費で「うたごころ」シリーズを制作している。